

多彩な機能で 電子ドラムの可能性をさらに広げる

11年ぶりに全面リニューアルした フラッグシップモデル

2021年9月、ヤマハは11年ぶりのリニューアルとなる電子ドラムのフラッグシップモデル「DTX10シリーズ／DTX8シリーズ」を発表した。

電子ドラムの歴史は1970年代にまで遡る。当初はアコースティックドラムでは出せない音色を売りにしていたが、次第にその静寂性が着目され、大きな音が出せない環境で使えるドラムとしての需要が増え、アコースティックドラムの音の再現性が重視されるようになる。ヤマハも1986年の電子ドラムパッド「PMC1」発表以降、電子ドラムを手がけて高い評価を得てゆき、2010年には最新技術とノウハウを結集したフラッグシップモデル「DTX900シリーズ」を発表。さらに、その直後から新たな企画構想もスタートさせていた。

「本当の電子ドラムとは何だろう、ヤマハでしかできないことは何だろう、という模索からスタートしました。すべてにおいてゼロベースで、その存在意義から考えたんです」と、企画担当の竹久英昭さんは語る。

2017年、新たなフラッグシップモデルの開発が本格的に動き出し、電子ドラムの主要な構成要素である音源・パッド・ラックのすべ

が刷新されることとなった。

「音源も新たにサンプリングしました。以前のモデルもナチュラル系の音を強みとしていましたが、さらに進化させました。具体的にはイギリスのリアル・ワールド・スタジオでヤマハのハイエンドドラムをトッププレイヤーにたいていただいて音を録っています」（竹久さん）

ドラム音源のサンプリングに際しては、直接楽器から出る音だけでなく部屋の鳴り（アンビエンス成分）も重視し、ナチュラルな音の再現性に磨きをかけるとともに、これまでモノラルだった出音もステレオとなり、より豊かな音の広がりを感じられるようになった。

感覚的に好きな音がつくれる パワーアップしたモジュール

「DTX10／DTX8」シリーズで

は、ナチュラルなアコースティックドラムサウンドを向上させるだけでなく、電子ドラムならではの可能性も徹底的に追求された。そうして新たに開発されたのがサウンドをコントロールするDTX-PROXモジュールだ。

「電子ドラムのお客さまにはシンセサイザーのような細かい調整をすることに慣れていない方が比較的多いんです。前モデルの『DTX900』は音の加工が簡単ではなかったんですが、今回はダイヤルをぐるぐる回したら音が変わる、という感じに操作を簡単にしました」（竹久さん）

演奏者が自分の感性で自由に音を変えられる操作性、さらにナチュラルな音と電子ドラムならではの機能をともに進化させていることも「DTX10／DTX8」

Point1 パワーアップしたモジュール

DTX-PROX

新たにサンプリングされた音源を搭載。さらにKIT MODIFIER、LEDロータリーフェーダーなど、感覚的に操作することで簡単に好みの音にアレンジできる新設計モジュール。



Point2 選べるヘッド



TCSヘッド(テクスチャード・セルラー・シリコン・ヘッド)

リアルなレスポンスでアコースティックドラムに近い演奏感が得られる。



メッシュヘッド

電子ドラムのヘッドとして最も普及しているレモのメッシュヘッド。

の大きな特長だ。

「電子ドラムは電子楽器ですから、デジタルなエフェクトやエレクトロニック系の音も前回のフラッグシップから飛躍的に進歩しています。実際にいろいろな方に評価をしていただくと、アマチュアの方はアコースティックドラムの音が良いとおっしゃいますが、プロの方からはエレクトロニック系の音が楽しいという評価が多いんです」（竹久さん）

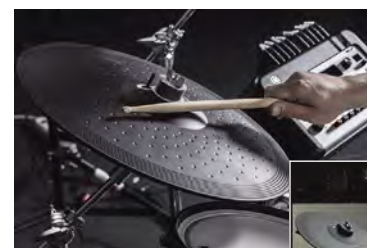
ドラマーにとって テンションが上がる楽器

スネアやタムタムのヘッド（打

Point3 ポジションセンシング



TCSヘッドのスネアドラムとライドシンバルには、たたく位置による音の変化を表現する打点検知機能がついている。その他、3ゾーンシンバルパッドなどにより、リアルな音の再現を実現している。



Point4 雰囲気のある木製シェル

ヤマハ・アコースティックドラムと同じ工場で作られた木製シェル（バーチシェル）が雰囲気演出している。



面）を選ぶことができるのも「DTX10／DTX8」ならではの特色だ。たたいたときの反発やスティックとヘッドの接触時間の特性が極めてアコースティックドラムに近いTCSヘッド（テクスチャード・セルラー・シリコン・ヘッド）と、物理的な反発特性はアコースティックドラムと異なるが構造が太鼓に

似ていて一般的に親しまれているメッシュヘッドが選択できるようになっている。「DTX10」では、スネア、タムタムのデザインもガラリと変わっている。木製シェル（バーチシェル）が採用され、アコースティックドラムを思わせる仕上がりがだ。「木製シェルを採用したのは、